



編集・発行 邑楽町役場企画課
 〒370-0692 (住所記入不要)
 ☎0276-88-5511 (代表)
 ☎0276-47-5007 (企画課直通)
 ☎0276-89-0136
 URL <http://www.town.ora.gunma.jp>
 E-mail koho@town.ora.gunma.jp

邑楽町携帯サイト
 2次元コード対応の携帯電話は、右のコードをご利用ください。読み取りができない場合はURLをご入力ください。
 携帯用URL <http://www.town.ora.gunma.jp/k>



〈第二十八回〉

若い人たちに語り継ぎたい、
 次の世代に残しておきたい。
 貴重な話をお届けします。

あすへひとこと

「邑楽町の昔ばなし」より

玉取姫 (たまとりひめ)



秋妻の地に今もたたずむ「玉取神社」

邑楽町秋妻では遠い昔から、どの家でも門を建てるのを忌み嫌いました。いつ頃のことか分かりませんが昔、秋妻に大金持ちの家がありました。

ある日の夕暮れ行商人が回ってきました。商い上手で、いろいろ旅の話などしているうち暗くなってしまう。行商人は主人に、「遅くなってしまうので、これから宿を見つくるのも困難です。ぜひ、お宅さんのどこでも結構ですから一晩泊めてください」と頼みました。

金持ちの主人は気持ちよく承知しました。その晩遅くまで、商人は旅先で見たり聞いたりした珍しい話を聞かせてくれました。たまに龍宮の話が出ました。商人は、「私が旅の土産話で最高に面白かったのは海底にある龍宮に行った話です。そこには美しいきれいな玉が一杯あって、好きなだけつかみ取りできます」と興味深く、話しました。

その家には美しい娘がいました。娘は隣の部屋で先ほどから商人の珍しい話を聞いていました。龍宮の玉の話を聞くと、急にその玉が欲しくて、欲しくてたまらなくなりました。しかし、龍宮へ玉探しに行きたいと親に話しても、かわいい一人娘を手放すことなど、決して許してくれるはずがありません。

秋妻の玉取神社の裏に大きな池があつて、その池には龍宮に通ずる道があるという話を村の人から聞いたことがあつたので、娘は決心して、あるとき、ひそかに家を抜け出し、池から龍宮への道を見つけて龍宮を目指しました。そしてようやく龍宮にたどり着きました。龍宮にはきれいな玉が、あちらにもこちらにも、すぐ手の届くところにたくさん転がっていました。娘はお気に入りの玉をすぐ手にすることができました。さあ、これからどうしようかと、ためらっていると、遠くで竜神が見張りをしていました。

娘は見つかっては大変と逃げ出しました。立派な龍宮の門がすぐそこです。門の外に出てしまえば何とかなると思ひ、やっと門の下に横木があつたのです。娘は気づかずにその敷居につまずき、倒れてしまいます。捕らえられて玉を取つたことが見つければ大変です。娘は護身用の懐刀で、素早く自分の乳の下を切つて玉を隠しました。そして、やつこのことで秋妻の家にたどり着いたのです。

娘がいなくなつて、大騒ぎをしていた金持ちの家では娘が帰ってきたので大喜びでした。しかし娘は、この傷がもとでとうとう死んでしまいます。両親の悲しみは、それはそれほしたいへんでした。

この様子を見たり聞いたりした秋妻の村人たちは門さえなければ、こんなことにはならなかつたのと、この娘の無念を慰めるために、それからは、秋妻では村中どの家でも門を建てることはありませんでした。

【発行】 邑楽町老人クラブ連合会 【編集】 あすへひとこと編集委員会
 平成10年12月31日発行「高齢者の語り(第六集) あすへひとこと」より



真夏の夜に
 広がる光線
 (おうら祭り花火)



Photo 高根澤高明(記録ボランティア)

ひとりごと From editors

▶今年のおうら祭りも、案の定猛暑となり、写真撮影も容易ではありませんでした。会場内を歩くだけで汗が噴き出し、照りつける太陽を何度恨んだことか…。▶それにも増して、お祭り会場は違う意味で熱かった。なかでも町本神輿の迫力は圧巻。神輿の勇壮さと担ぎ手の威勢のよい掛け声。自分も写真を撮りながら、「せっやー、せっやー」と自然と掛け声が出てしまい、神輿のリズムに乗ってしまいました。やっぱり神輿はカッコいい。そう思いながらシャッターを夢中で切っていました。▶取材中、「熱中症に気を付けて」などと言葉を掛けてもらうことも。お気遣いありがとうございます。おかげさまで無事に楽しく、取材することができました。『おうら祭りにありがとう』です。(小林)



この広報誌は、自然保護のため
 植物油インキを使用しています。